

# 水田転換ウメ園の排水対策技術

## 1 はじめに

平らな水田転換園は作業効率が良い反面、排水性が悪いいため樹勢が弱くなりやすく、畑地ウメ園に比べて収量も低くなります。排水溝を設置することにより、排水性が改善され、水田転換園でも畑地ウメ園と同等にウメが生育します。

## 2 排水溝を設置することにより園地の水はけが良くなります

幅30cm、深さ50cmの排水溝を2樹列毎に1本設置します。排水溝は水の流出する方向を見極め、末端は必ず園外に排水するように設置します。掘り上げた土はウメの株元に寄せ、根域の土層を増やします。排水溝には作業性の確保および壁面の崩落防止のため、籾殻やかき殻等の排水を妨げない資材を充填します（図1）。

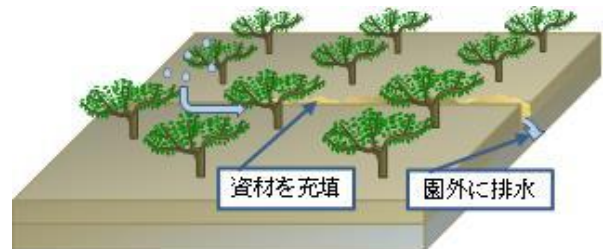


図1 排水溝の模式図

## 3 排水溝に充填する資材

資材は籾殻が手に入りやすいですが、腐りやすく、毎年約10cmずつ沈むので補充が必要になってきます。また、籾殻の上に脚立を置いたり、乗用草刈機などの機械で籾殻の上を通ったりするとバランスを崩しやすいので注意が必要です。かき殻、碎石、パーライトは初年目のみ約5cm沈むだけですが、かき殻は入手期間が冬～春季に限られ、碎石、パーライトは長さ25m、幅30cm、深さ50cmの溝1本当たり、15,750円、66,000円のコストがかかります（図2）。

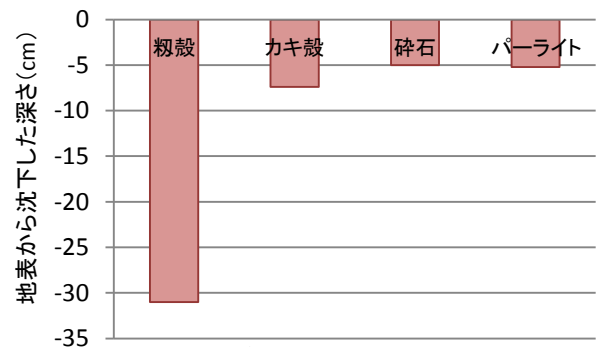


図2 資材の耐久性

（資材充填後4年目、ただし、籾殻は1年目に約12cm沈み、補充した）

## 4 排水対策をすると畑地ウメ園と同等の収量が得られます

排水溝の設置により園地の水はけが良くなると、畑地と同じくらい新梢が伸びるようになり、収量も畑地と同等になります。排水溝を設置していない水田転換園では、新梢がほとんど伸長しないか枯死し、収量はありませんでした（図3）。

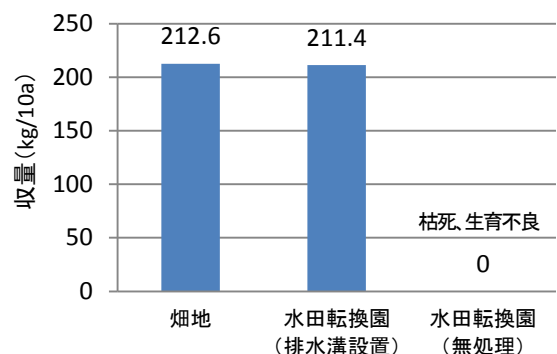


図3 排水対策の効果

（7年生（2年生苗定植）、排水溝設置4年後）

## 5 作業は計画的に行う

草が繁茂せず、土壤水分の多い冬季に園地をよく観察し、水はけの状況、水の停滞する場所を確認し、排水溝を設置する場所を決めます。排水溝を掘ってから資材を充填するまでに期間をおくと、壁面が崩壊し、溝が埋まってしまうので、資材を準備してから溝を掘るなど計画的に作業を進めます。